

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
織田ファッション専門学校		昭和51年9月1日		鈴木 貴子		〒164-0001 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人織田学園		昭和40年10月21日		鈴木 貴子		〒164-0001 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																					
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																			
服飾・家政		服飾専門課程		ファッションデザイン科		平成21年文部科学省 告示第21号		-																			
学科の目的		服飾に関する専門的学理と技術を教授するとともに、就職した現場で大切なビジネス感覚を持ち合わせ、さらにデザインだけでなく服の構造であるパターンや仕様が理解できるデザイナーを目指す。																									
認定年月日		令和4年3月25日																									
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技															
2年		2304		384		0		1920		0		0															
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間															
80人		30人		1人		3人		11人		14人																	
学期制度		■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～翌年3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 教科目の成績の評価は、「S」(100点～90点)・「A」(89点～80点)・「B」(79点～70点)・「C」(69点～60点)・「D」(59点以下)の5段階をもって表わし、C以上を合格とする。																			
長期休み		■学年始: 4月1日～4月9日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日～3月31日				卒業・進級条件		■進級条件 1年次のすべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。 ■卒業条件 すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。																			
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール・個別面談・保護者面談				課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 研修旅行・学園祭、各種コンテスト参加 ■サークル活動: 無																			
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) アパレル業界 ■就職指導内容 就職ガイダンス、卒業生の講演、キャリアセンター設置、就職支援サイトキャリアマップ導入 ■卒業生数 12 人 ■就職希望者数 4 人 ■就職者数 3 人 ■就職率 75 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 25 % ■その他 ・内部進学者数: 7人 (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年5月1日 時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンメイキング検定2級</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング検定3級</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 名古屋ファッショングランプリ 入賞 1名 YKKファスニングアワード 入選 2名				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	パターンメイキング検定2級	③	8	6	パターンメイキング検定3級	③	11	11	ファッションビジネス能力検定3級	③	1	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
パターンメイキング検定2級	③	8	6																								
パターンメイキング検定3級	③	11	11																								
ファッションビジネス能力検定3級	③	1	1																								
中途退学の現状		■中途退学者 2名 ■中退率 8% 令和2年4月1日時点において、在学者26名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者24名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題・進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度、個人面談、保護者面談、学生相談窓口設置(メンタルカウンセラー)、キャリアサポート																									
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・入学金等免除制度・・・指定校推薦入学では評定平均値により、キャリア入学では社会人等の条件により、入学金や選考料を半額等免除する制度 ・ODA特別紹介制度・・・織田学園の卒業生・在校生の紹介により入学する場合、入学金の全額または半額を免除する制度 ・各種コンテスト入賞者免除制度・・・織田ファッション専門学校主催の「高校生ファッションデザインコンテスト」「高校生コーディネートコンテスト」等で所定の賞を受賞した方の入学金の全額または半額を免除する制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL		https://fashion.oda.ac.jp/academics/design/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
本校カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。2年間を通して服飾造形に必要な基本的技術を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置付けられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大原 由梨佳	一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	①
宇佐美 恵子	オフィスウサミ 代表	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	③
鈴木 貴子	織田学園理事長・織田ファッション専門学校 校長	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	
丸山 美智子	織田ファッション専門学校 副校長	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	
高橋 明美	織田ファッション専門学校 教員	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	
中 宏樹	織田ファッション専門学校 教員	令和2年10月1日～ 令和3年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年12月11日(金) 14:40～15:40

第2回 令和3年4月2日(金) 14:30～15:30 ※コロナ感染症対策により4月に実施

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会でのご意見を参考に企業が求める人材育成のため、教員間でさらに話し合いを重ね、改善できるように努力している。課題点として挙げたデジタル化や学外へのアピール力強化については、授業科目「スタイル画」でのiPadの導入やプレゼンテーションのLive配信などを授業に取り入れ改善に努めている。今後はさらなるデジタル化の強化や学生のプレゼンテーション力向上のために、課題発表をより多くの方に見ていただける機会を設けていきたい。また学内のイベントや授業についても、もっと学外にアピールしていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

感性を豊かにし、クリエイションを表現するための基礎力、売れる商品をデザインするための企画力を養い、アパレル業界の仕組みを理解できる人材を育てるため、企業からの直接指導を受け、現場の厳しさや最新技術等を学ぶことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業に講師派遣を依頼し担当教員と連携しながら実習を行う。講師の指導の下、学生たちがリサーチ、企画、デザイン、パターン製作をし、サンプルを縫製を行い、展示会の日程をお客様へ告知し受注を受ける。一人一人のお客様に対してフィッティングをし、ディテールをカスタマイズして注文された商品を生産し、出来上がった商品を学生からのメッセージを付けてお客様へ郵送するという一連の流れを行う。実習でのお客様対応、技術習得状況等について企業の講師の方から評価を受ける。報告会では、学生がプレゼンを行い素材提供の企業からも評価を受ける。企業等からの評価を踏まえて担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
服飾造形Ⅱ (ソーイング企業コラボ)	リサーチ、企画、デザイン、パターンメイキング、サンプル検討、展示会、反省会まで企業の一連の流れを学ぶ。受注した商品を各お客様に向けて本生産する。サンプル製作、オーダー品の製作した商品を検品していただく。	株式会社カラビナクリエーション
特別講義Ⅱ (企業コラボ)		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生に教育指導するため及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

◇ 研修名「セコリジャパンスクール」(連携企業等:セコリジャパンスクール)

期間: 令和2年10月3日～令和3年3月27日 対象: 1名

内容: イタリアのセコリ式パターンメイキングを学ぶ。

◇ 研修名「新ものづくり研究会」(連携企業等:アズマ株式会社 講師:稲荷田 征先生)

期間: 令和2年10月28日、12月2日、令和3年3月23日 対象: 2名

内容: 連携企業やアパレルメーカー、附属メーカー、服飾学校教員による会員が新しいものへのアイデアを出し合い、縫製について学び、研究する。

◇ 研修名「フランスアート刺繍講習」(講師:アトリエ・パイエット主宰 矢倉 道子先生)

期間: 令和2年10月～令和3年3月(全12回) 対象: 2名

内容: 基礎の刺し方から自由な図案に対してのビーズの種類や色について学ぶ。

◇ 研修名「第20回技術研修会」(連携企業等:日本モデリスト協会)

期間: 令和2年8月22日、11月14日(オンライン) 対象: 1名

内容: アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。

② 指導力の修得・向上のための研修等

◇ 研修名「第3回職業教育シンポジウム 学びの現場から」(連携企業等:(株)ユニバーサルサポートシステムズ)

期間: 令和2年11月9日 対象: 4名

内容: 連携企業が提供するキャリアマップシステムを活用した就職活動におけるWEB面接対応等やコロナ禍における職業教育の現状やオンライン授業の課題や活用方法を学び、オンライン授業実施や就職活動の指導力を向上させる。

◇ 研修名「人権教育研修 学校に求められる性の多様性の理解と対応」(連携企業等:東京都私学財団)

期間: 令和2年11月30日 対象: 1名

内容: LGBT/SOGIについての正しい知識や対応を学び、時代に沿った学生対応の仕方を学び学生支援に活かす。

◇ 研修名「東京外国人材採用ナビセンターWEBセミナー」(連携企業等:東京都外国人材受入総合サポート事業)

期間: 令和2年12月4日 対象: 1名

内容: 外国人材の最新動向や採用について学び、留学生の対応の仕方や就職支援の方法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

◇ 研修名「セコリジャパンスクール」(連携企業等:セコリジャパンスクール)

期間: 令和3年4月3日～7月31日 対象: 1名

内容: ジャケットを製作し、最終チェックと特別研修を受ける。

◇ 研修名「新ものづくり研究会」(連携企業等:アズマ株式会社 講師:稲荷田 征先生)

期間: 令和3年5月～毎月1回開催予定 対象: 2名

内容: 連携企業等との研究をとおして繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。

◇ 研修名「フランスアート刺繍講習」(講師:アトリエ・パイエット主宰 矢倉 道子先生)

期間: 令和3年5月19日～(全24回) 対象: 2名

内容: 1年間を通して刺繍技術を学び、刺繍を利用して洋服を仕立てる。

◇ 研修名「技術研修会」(連携企業等:日本モデリスト協会)

期間: 令和3年8月21日(オンライン) 対象: 1名

内容: アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。

◇ 研修名「弥生会」(主催:弥生会)

期間: 令和3年4月～毎月1回 対象: 8名

内容: パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

◇研修名「コーチングの手法を用いた問題把握・具体的展開実践」(連携企業等:株式会社リバースキャリアコンシーオー)  
 期間:令和3年8月 対象:1名  
 内容:コーチングの基礎やキャリアカウンセリングにおけるコーチングを用いる効果を学び就職支援指導に活かす。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価について客観性と透明性を高めるとともに、学校関係者から助言を得るため、外部評価を実施する。本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、改善提案を行い、質の向上を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は、定められているか
(2)学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4)学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5)学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6)教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	数値目標(入学生数80名)は達成できたか
(8)財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9)法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10)社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

イベント中止が多い中で、学生の作品を見せる場を提供したり、学生のモチベーションを上げるための企画をぜひやってほしいというご意見を参考に、地域と連携して作品展示をするイベント実施を検討したり、キャリアマップ活用について在校生向けへの情報発信強化検討など、いただいたご意見を検討し学校運営に活用するよう努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
辻 庸介	株式会社辻洋裁店 取締役会長	令和3年8月1日～ 令和4年7月31日(1年)	企業等委員
鶴見 千寿子	COASTER パタンナー	令和3年8月1日～ 令和4年7月31日(1年)	企業等委員、 卒業生
松野 仁美	フリーランス スタイリスト	令和3年8月1日～ 令和4年7月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/reports/>

公表時期:令和3年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページとパンフレットにより教育活動や取り組み等の学校運営について最新情報の提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3)教職員	校長メッセージ、教員からのメッセージ、教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6)学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7)学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8)学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11)その他	ファッション学生にインタビュー!、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/>

## 授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションデザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			服飾造形Ⅰ (服飾造形論)	服飾に関する基礎知識の講義。 各製作するアイテムに関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	1通	60		○			○		○		
2	○			服飾造形Ⅰ (デザイン)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。	1通	20		△			○	○		○	
3	○			服飾造形Ⅰ (ソーイング)	基本的な縫製技術の習得。 原型・スカート・シャツ・ワンピース・子供服・パンツ・ジャケット・修了作品の実物製作とレポート製作。各アイテムに必要な部分縫い製作。	1通	390		△			○	○		○	
4	○			服飾造形Ⅰ (生産管理論)	市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	1通	20		△			○	○		○	
5	○			パターン メイキングⅠ	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターン メイキングとトワル組み。	1通	204		△			○	○		○	
6	○			ドレーピングⅠ	ドレーピングの基礎と原型、タイトスカートのドレーピング。	1後	70		△			○	○		○	
7	○			スタイル画Ⅰ	スタイル画の基礎、プロポーション、顔、身体などの描き 方、平絵、コピックの使い方を学ぶ。線画での身体、服の 描き方、コピック・色鉛筆での方法を覚える。	1通	50		△			○	○		○	
8	○			マテリアルⅠ	被服素材の基礎と服のデザインやパターンとの関連性を解 説する。 画像や実物の説明から視覚からの認知を高める。 被服素材の基礎知識を習得する。	1前	40		○			△	○		○	
9	○			デザイン・ クリエイション (デザイン)	ファッションデザインに限らず、身の回りのモノも含め 『デザイン』を理解する。実習を通し、デザイン技法を理 解・習得する。	1前	16		△			○	○		○	
10	○			デザイン・ クリエイション (クリエイショ ン)	デザインとは何か、個々のオリジナル性を追求し、どうい う事かを理解し、学ぶ。実習、プロジェクトを通し、リ サーチの重要性、デザインやカラー、バランスを認識・理 解する。	1後	38		△			○	○		○	
11	○			カラーⅠ	色彩の基礎知識をもとに、調和のとれた配色方法と配色テ クニックを学ぶ。	1通	50		○			△	○		○	
12	○			西洋服装史	衣服の起源と古代から現代までの西洋服飾の変遷を、映像 を交え解説。文化、芸術、宗教など様々な歴史との関連を 持つ装いを理解し、現代のファッションやデザイナーにも 影響を与えていることを踏まえつつ、興味と知識を深め る。	1前	30		○			○			○	

13	○		ファッション ビジネス概論	講義だけでなく、グループミーティングも含め、多角的に学ぶ。 アパレル業界の仕組み、流れの理解。 服飾の授業との連動で商品企画。	1 前	36		○	△	○									
14	○		ニット・手芸・ 帽子Ⅰ (ニット)	三原組織を実習することにより緯編みニットについて理解し、ニットの性質も理解する。 変化組織を実習することにより編み地を知る。	1 後	20		○	△	○									
15	○		ニット・手芸・ 帽子Ⅰ (服飾手芸)	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展出来るように、エンブroidリー刺繍のテクニックを学ぶ。	1 前	20		△	○	○									
16	○		CGⅠ	アパレルのデザイナー職では必須の技術であるCGの操作を習得する。基本的な設定・基本的な操作に慣れるように簡単な課題を積み重ねていく。	1 通	60		△	○	○									
17	○		特別講義Ⅰ (就職講座)	アパレル企業の仕事の内容を理解して企業研究をし、具体的に企業で働く事の意識を高める。	1 通	12		○		○									
18	○		特別講義Ⅰ (校外授業)	クラスの親睦を深めるためにウォークラリーを実施。感性や知識を深めるための美術館見学など。	1 通	8				○									
19	○		特別講義Ⅰ (特別講義)	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	1 通	8		○			○								
20	○		服飾造形Ⅱ (服飾造形論)	各製作するアイテム、素材に関する基礎知識の講義。試験で確認する。	2 通	30		○			○								
21	○		服飾造形Ⅱ (デザイン)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。デザインバリエーションの展開。	2 通	30		△		○	○								
22	○		服飾造形Ⅱ (ソーイング)	工業的な縫製方法、伸びる素材、厚い素材の基本的な知識を学ぶ。 早縫いジャケット、カットソー、セットアップ、ショー作品、CGプリントのシャツ、コート、ブラックフォーマルの実物製作と部分縫い。	2 通	388		△		○	○								
23	○		服飾造形Ⅱ (ソーイング 企業コラボ)	企業コラボで受注した商品を各お客様に向けて本生産する。	2 後	40		△		○	○								○
24	○		服飾造形Ⅱ (生産管理論)	アパレルの生産システムを学ぶ。 市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	2 通	20		△		○	○								
25	○		パターン メイキングⅡ	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。 原型からのパターン展開。	2 通	196		△		○	○								
26	○		ドレーピングⅡ	1年次の基本をもとに、応用して学ぶ。 原型、ダーツ遊び、ヨーク付きギャザースカート、オーバーブラウス、ワンピース、デザインスカート、OFDCトワルのドレーピング。	2 通	82		△		○	○								
27	○		スタイル画Ⅱ	基本アイテムを正確に描く。 表現力の向上。	2 通	60		△		○	○								



28	○		マテリアルⅡ	素材の流行、選択、管理を解説する。 繊維の基本の加工を理解する。 染色の基礎を理解する。 流行による素材の方向性の変化を理解する。	2 前	30	○	△	○									
29	○		クリエイション	要素をミックスしてデザイン発想する訓練をする。それを、ヴィジュアル、トワル、デザイン画で表現する。自分らしさを認識し、それを活かしたデザイン発想ができる表現力を身につける。	2 通	48	△	○	○									
30	○		カラーⅡ	色彩の基礎知識をもとに、個性ある様式美の色彩表現や、想像力を活かしたファッションイメージの色彩計画が行なえることを目標とする。	2 前	30	○	△	○									
31	○		マーケティング	既存ブランドから、マーチャンダイジング・ブランディングの初級知識を理解する。	2 通	32	△	○	○									
32	○		ニット・手芸・帽子Ⅱ (ニット)	工業ニットに必要な基礎知識。 編み機（シングル/ダブル）を使用することにより編み機を理解し、各編み地を知る。 総まとめとして、仕様書を書く。	2 前	14	○	△	○									
33	○		ニット・手芸・帽子Ⅱ (服飾手芸・帽子)	1年次の基本をもとに色々な材料で応用する。 ビーズ刺繍、キルティング、リボン刺繍のテクニックを学ぶ。型入れの帽子を製作する。	2 通	26	△	○	○									
34	○		CGⅡ	PHOTOSHOP、ILLUSTRATOR、POWERPOINTの操作およびCGIによるアパレル企画分野でのプレゼンテーション力のスキルアップ。 プリント柄のデザイン展開の理解。	2 通	66	△	○	○									
35	○		特別講義Ⅱ (企業コラボ)	企業の仕事の流れを体験する。企画、デザイン、パターン、サンプル製作、受注会、本生産を全員で検討しながら進める。	2 通	18	△	○	○									
36	○		特別講義Ⅱ (就職講座)	技術職として就職活動するための心構えから学ぶ。業界新聞を読んで、アパレル業界の現状を知り知識を得る。具体的な履歴書の書き方インターシップの受け方などを指導。	2 通	16	○		○									
37	○		特別講義Ⅱ (校外授業)	研修旅行として企業コラボに関係するデニムに関する工場見学を実施。その他ピキーズショー見学や美術館見学を通して知識と感性を養う。	2 通	18			○		○	○						
38	○		特別講義Ⅱ (特別講義)	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	2 通	8	○		△	○								
合計						38科目	2304単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全ての課題を提出する。各教科の出席が2/3以上であること。		1学年の学期区分	2期
各教科の成績がC以上であること。		1学期の授業期間	平均16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。